



阿南土第 166 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

阿南市長 岩 浅 嘉 仁



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答致します。

①道路行政全般について改善すべき、要望や提案など

1. 地域間格差是正の観点から、地方にとって真に必要な道路整備が着実に進められるよう「地方の道路整備財源を安定的かつ十分に確保する仕組み」を構築するとともに、道路整備が遅れている地方への重点配分を図ること。
特に、地域の道路整備を支えている「地方道路整備臨時交付金制度」を存続・拡充し、これまで以上に地方の道路整備財源の「優先確保」を図ること。
2. 地方にとって「真に必要な道路整備」を新たな「道路整備計画」に明確に位置付け、その整備を着実に推進すること。
3. 地域間交流、推進を促進し、地域の自立と競争力強化を図るため、また東南海・南海地震対策のため「命の道」となる「四国8の字ネットワーク」を形成する四国横断自動車道(阿南～鳴門間)、阿南安芸自動車道(地域高規格道路)の早期整備を図ること。
4. 高速ネットワークの有効活用を行うため、必要な財源を確保するルールを確立し本州四国連絡道路を含む高速道路の通行料金引き下げや多様な弾力的な料金設定を行うこと。
5. 今後、橋梁等の市道施設が急速に老朽化することを踏まえ、道路網の安全性及び耐久性が確保されるよう、適時適切な修繕等を行えるよう必要な財源の確保を図ること。

今後の道路行政についての意見・提案

②－1 地域の現状と抱える課題

様式②

徳島県阿南市

○現状 阿南市は、豊かで美しい自然や四国遍路に代表される優れた歴史・文化遺産を活用した観光や、農産物、魚介類など生鮮食品の京阪地域への供給基地として、さらには世界的シェアを占める先端産業の振興など、特色ある郷土づくりを進めている。 また、平成18年度に旧阿南市、旧那賀川町、旧羽ノ浦町が合併し、行政面積約280km²に拡大、住民生活や社会経済活動を支える基本的な社会基盤施設である道路の整備が遅れており、主要幹線道路は一般国道55号しかなく、高速道路ネットワークの整備は今年2月に下大野地区（四国横断自動車道）で設計協議が整うなど緒についたばかりである。	○課題 本市では、交通機関が未成熟ななか、市民生活や社会経済活動の大部分を道路に依存しているにも関わらず、道路整備の水準は全国的にみて非常に遅れており、四国8の字ネットワークの整備をはじめ市民生活に不可欠な生活道路の整備および、道路の防災対策や高齢化する既存施設の適切な維持管理など、解決すべき課題が数多く残っており、今後とも計画的、重点的に取り組んでいく必要がある。
---	--

②-2 地域の目指すべき将来像

本市は、県南の産業、経済の中心都市としての機能を果たしてきていますが、明石海峡大橋の開通や情報化の進展により広域的な都市間競争が激化することが見込まれることから、定住と交流を促すため、総合的な魅力があり安全な都市づくりがこれまで以上に求められています。

四国横断自動車道や阿南安芸自動車道(地域高規格道路)、四国バイパスなど広域的な交通ネットワークの整備を促進するなかで、広域交通ネットワークへのアクセス道路等都市基盤施設や生活を楽しむ憩いの場、都市景観などの整備を進めるほか、市域内の均衡ある発展や既存中心部の再整備、防災対策の充実などに努め、県南及び環大阪湾・紀伊水道圏域の発展を先導し、人々が集う交流都市づくりの推進が今後の課題です。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④
徳島県阿南市

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	県南の中核拠点都市を目指し人、物、情報の交流拠点を形成するために、阪神大都市圏や中国、四国との交流を活発にする基盤として、四国横断自動車道や阿南安芸自動車道(地域高規格道路)の整備	高速交通体系の整備により、交流が活発化し、災害にも強く安全性の高い地域社会の構築	